

○議長（明和善一郎君） これより、村政一般に対する質問並びに提出案件に対する質疑を行います。

通告順に発言を許します。

4 番 森 弘秋君。

○4 番（森 弘秋君） 通告してあります京坪川河川公園と舟橋駅前公園の行事等連携をどのように進めていくのか。その策についてご質問いたします。

私はさきの議会でもお話ししましたが、本当に世の中、何が起きるかわかりません。近々では、台風10号、11号、12号、13号と日本列島を襲い、大きな爪痕を残しました。被災地の皆さんは大変困っておられる。頑張ってください。お見舞い申し上げます。

幸い、富山県は立山連峰のおかげか、現在のところ特に被害がございません。しかし、油断大敵であります。

ところで、先月配布された「県広報とやま」8月号の記事の中で、「元気レシピ」欄に、舟橋村食生活改善推進協議会が「かぼちゃのスープ」としてそのつくり方を掲載していました。県下、県民に舟橋村の広報です。まことによいというふうに思います。

日本一面積の小さな舟橋村を周知するため、宣伝するため、その手段はいろいろありますが、いろんな視点からこのように紹介するのもよしであると考えます。

先日のふなはしまつりにも村長は、日本一面積の小さな舟橋村云々と宣伝されていました。また、子育て共助のまちづくりとは、住宅、保育園、公園など、子育てにかかわる場を中心に、コミュニティ単位で子育てをサポートする仕組みと言っておられます。

そして、一事業として子育てに優しいパークマネジメント事業を掲げ、「全く新しいきらりと光るものをつくり出せ」と結んでおられる。全くそのとおりであります。

さて、公園の整備はほぼ完了しました。いや、完成しつつあります。公園だけを捉えると、子どもだけの遊び場と考えるかもしれません。しかし、エイジレスの時代です。大人も仲間入りです。全世代間の交流の場所であります。健康維持の場所でもあります。

そこで、せっかく整備された公園であります。今後整備をされる公園を含め、公園の持ち腐れにならないようにしっかりと活用していかなければならないと考えるのは私だけではないと思います。

その投資額は、完成分だけで4億円余りを投資しております。ハード部分が整備されただけでは済まされません。多額の資金、税金を投じて整備した施設をどのようにして

村民にサービスを提供されるのか、還元されるのか。その投資効果を目に見える形であらわしていただきたいと考えます。中長期的に何をどうすれば村民にサービスを提供できるか、じっくり考えていただきたいと思います。

知恵を出し、汗をかいていかねばなりません。職員の皆さんはフットワークの軽い人です。行政側からは公園を整備しました。あとの利用は、村民自らがアイデアを持って活用について考えろかもしれません。しかし、地元の方々、新しく村民になられた方々との融合が難しいことは今に語られたことではありません。

ようやく融合の兆しが見えてきました。きつつあります。ここで、再度行政側から、整備された公園を利用するための仕掛けが必要と考えられると思うが、いかがでしょうか。

私は昨年の6月議会で、京坪川河川公園に限って言えば、中間にもう1つユニークな橋をかければ住民が利用しやすくなるとの提案もしてきました。オレンジ・パークリニューアル構想を再度検討されることも一考かなとも考えます。

では、何をすればよいか。例えば先日、新聞で報道されていましたが、砺波市と南砺市のステージ共演については、市の枠を越えて「となみ野フェス」として、3つのコンセプトに基づき、各会場ではほぼ同時に開演です。

舟橋村とは規模が違い、また人口にも差があるから確かに難しいかもしれません。するとやはり、知恵を出し汗をかいていかねばならないことです。

舟橋村でのイベントは、富山市、立山町、上市町の近隣者を交えた垣根を越えた、広域的に住民が集まり、京坪川河川公園と舟橋駅前公園での同時イベントの開催。少し背伸びをして、あの小さな舟橋村がこんなすばらしいイベントをしている。きらりと輝いている。村の宣伝になります。グローバルの時代です。

このような考え方は、舟橋村でも、子育て支援センター「ぶらんこ」で実証済みではないですか。ぶらんこの前を通るたびにのぞいています。子どもたちが元気に遊んでいる。楽しいことです。世話を預かっているお母さん方、ご苦労さまです。

ぶらんこの27年度の利用実態を見ますと4,000人余り。1日に約12人が利用している。中でも、10月は1日21人、3月は約24人の利用、驚異的です。28年度、7月末まで1,750人、1日22人弱が利用。税金の納付の問題もあるかもしれませんが、居住別には富山市が断トツで約2分の1です。次いで立山町、上市町。このように、村外の利用者が結構いらっしゃる。ここに来るモチベーションは口コミだそう

です。人の口によって広がれば宣伝料は無料、ゼロ円です。

このように、ぶらんこを利用する子育ての方にも公園を利用してもらいましょう。私は以前にも、企業誘致ということで、ホテルも考えてはどうかの発案もしました。空想的な発想も時にありかもしれません。

幸い、京坪川河川公園では年中行事が定着しつつあります。京坪川河川公園と舟橋駅前公園の連携、にぎわいの効果をどのように図るのか。役割分担、継続性、相乗効果等、難題は山積しておりますが、やはり仕掛けが必要だと思います。目の前だけを見るのではなく、先のほうを見て、今すぐ実行できるものではありませんが、今この時点から考えておかねばならないと思います。

村の中心部である京坪川河川公園と舟橋駅前公園の地理的条件のよい一等地でいろいろなイベントを実施することは、言ってみれば一つの手段であって、究極的には、舟橋村を近隣市町、県内はおろか全国にどのように紹介するか、日本一面積の小さな村を住みよい魅力的な舟橋村にするかであります。このことから、人が集い人口増が図られます。

この公園エリアを地方創生にどのように結びつけるか。きらりと光った活用をどうするのか。村民に対しサービスをどのように提供するのか。中長期的な立場での考えを問います。

○議長（明和善一郎君） 副村長 古越邦男君。

○副村長（古越邦男君） 私から、森議員さんのご質問にお答えをいたします。

公園は、日常の遊びやレクリエーション、散策、休養、災害時の避難場所などの利用に加え、地域住民が多様なコミュニティ活動を営む拠点でございます。しかし、昨今、ライフスタイルの多様化、地域コミュニティの希薄化、公園利用者のニーズとの乖離などを背景に、公園は必ずしも住民の暮らしに十分生かされなくなっている現状もございます。

このような中、舟橋駅前公園はことし5月に完成記念式典を行いました。当日は、地元竹内地区の皆様や舟橋小学校、花とみどりの少年団の児童の皆さん等、たくさんの参加をいただき、ヤマブキ、ムラサキシキブ等の低木や、地元からご要望のございましただれ桜を植樹し、全員で完成を祝いました。

この公園の整備に当たっては、地元竹内の自治会さんと業者さんとが、愛着の持てる公園とするにはどうすればよいか、何度も何度も協議を重ねられ、私たちの公園、地元

の財産として満足度の高い公園として完成を見たのであります。

キッチンガーデンでは、学童保育に通う子どもたちが、大豆やサツマイモを植え、秋の収穫を楽しみにしております。地区の交流事業であるバーベキュー大会も、この公園で行うための企画を練っている最中と伺っております。また現在、小学生にこの公園の愛称を募集中で、決定すれば公園内に表示したいと考えております。

このように、人と人とのつながりを大切にし、楽しさと愛着を実感できる地域の庭的な公園として、これからも地元自治会と管理業者が一体となって取り組みされるよう行政もかかわってまいりたいと考えております。

京坪川河川公園は、用地買収済みのエリアを今年度中の完成に向けて事業を進めております。当初計画に基づく事業着手が平成8年でございますので、21年かけ、テニスコートエリアを含め、全体約3.4ヘクタールの公園が完成することとなります。

河川公園の名前のとおり、二級河川の河川区域も含めた公園ですので、緑豊かな自然環境と水辺空間をも備えた公園で、北日本新聞と共催で「あしたの森」事業や、村歌「ちっちゃな舟橋村」の発表会場として、たくさんの方々にご利用をいただきました。また春には、舟橋村まちづくり協議会の皆さんがサクラ・ミーツ・ザ・ファイヤーを開催し、村内外から多くの若者の参加を得ております。

夏には、立山舟橋商工会舟橋支部の皆さんが、河川公園の特徴を生かした事業として魚のつかみどり大会を開催されております。たくさん親子がなかなか経験できなくなった生きた魚との格闘を楽しんでおります。

秋には、保育所の子どもたちが地域の指導者の協力を得まして、野点に挑戦しております。祖父母や地域の皆さんへ感謝の心を込めて一生懸命取り組んでおります。

今年度新たに、公園管理者の提案で、3歳児から5歳児を対象に、エイジレス世代の皆さんとの交流事業も計画されております。

また、子育て共助の村づくり事業として、河川公園に隣接した保育園の建設計画について皆さん方にご説明してまいりました。緑豊かなこの河川公園は、子どもたちを健やかに、そして伸び伸びと保育でき、地域の子育てサポーターの方やエイジレス世代との協働により、地域ぐるみで見守る空間を形成することができます。

この公園は、村の掲げますもう1人子どもを生み育てたいと思える地域環境整備事業の重要なファクターでございます。

今後も、2つの公園が村民や各種団体、事業者など多様な主体が参画し、それぞれの

持ち味を発揮することにより、人と自然が共生する安全で良好な村民の財産として、地域の活性化、世代間交流、文化の場として活用されるようサポートさせていただきたいと考えております。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（明和善一郎君） 森 弘秋君。

○4番（森 弘秋君） 今ほどは答弁ありがとうございます。しかし、私も言いましたように、確かに、京坪川河川公園については年中行事が大体定着しているのかなというふうなことを言いました。これから何かいろいろと考えているそうですが、私の言っておるのは、副村長は今たまたま、各公園のそれぞれの持ち味を生かして云々という話でしたが、この地方創生の時代で、住民を増やすことも大事でありますし、なら村民、私は別にあれですけども、村民だけの喜びではなくて、やっぱり地域、この周り、先ほど言いましたように、富山市を含めた立山町、近隣市町ですかね、そこらあたりをもう少しエリアを広げて、そのこと自身が、なぜか自然的に、自然発生的といいますか、人口が増えるというふうなことに見えるんですよ。

だから、極端なことを言いますと、舟橋村だけの、確かに村民だけの公園でありますからそれは大事ですが、もう少し味をつけて、持ち味ですか、もう少し羽を広げて、先日もある会合で、「中新川郡にどんな町があるんや」と。「中新川郡ちゃ、立山町、上市町、舟橋村ですよ」「ええ、そいがかい」という感じで、県民の人でも舟橋村を知らん。とすれば、もう少し舟橋村そのものをアピールすると。先ほど言いましたように、支援センター「ぶらんこ」みたいなもので、税金の問題もありますけども、それは横に置いておいて、もう少し村全体として何か考えてほしいなど。その考え方が全く出ていない。持ち味を生かしたではなくて、例えば3年後にこう、2年後にこう、あるいは5年後にこう、そういったものぐらいは少し職員の皆さん方の頭の中で考えて、こんなふうにやろうじゃないかというディスカッションぐらいしてもらって。なる、ならんは別として、せめてこんな希望があります、こんなことを考えていますというぐらいは私はあってもいいんじゃないかというふうに思います。

この答弁をよろしくお願いします。

○議長（明和善一郎君） 副村長 古越邦男君。

○副村長（古越邦男君） 森議員さんの再質問にお答えをさせていただきます。

中長期的な考え方を持った公園というふうなお話がありました。今ほど申し上げま

したとおり、サクラ・ミーツ・ザ・ファイヤーでは村内外から多くの若者が集っております。これが口コミで広がっていくということは十二分に考えられるのではないかなというふうに思っておりますし、子どもたちへの配慮ということは、自然的に大人がかかわることですので、そういう中でも広がっていくものというふうに考えております。

公園というものは、現在、行政側がつくったから、どうぞどうぞ、皆さん使ってくださいよというスタンスではなくなってきたというふうに考えております。ともに作り上げていくということが重要になりつつあるというふうに考えております。ですから、これからも地域の方々とともにそれぞれの公園を育てていくということが舟橋村の発展につながっていくものと。強いては、この取り組みが県内外に広がっていくというように考えております。

行政側といたしましては、今言いましたとおり、ともに歩む。保育園事業もそうでございます。公園と保育園とマッチさせることによって広がりを高めていくということでございますので、ご理解を賜りたいというふうに思います。

以上、答弁とさせていただきます。

○議長（明和善一郎君） 森 弘秋君。

○4番（森 弘秋君） 今、副村長は、ともに育てていく、ともに歩むと。なら、どうしていくんだと。具体的には全く出てこない。例えばこんなことを考えているんだと。それは遠い遠い目的かもしれないね。言われるとおりであるかも。であれかもしれないけども、ともに育てていきます、ともに歩んでいきます。答えになっとらんですね。こうしていくんだというものがない。1つでもいいから、例えばこういうことを考えているんだというものがあれば出してもらいたいというふうに思います。

○議長（明和善一郎君） 副村長 古越邦男君。

○副村長（古越邦男君） 森さんの再質問にお答えいたします。

具体的なものを出せというお話でございますが、先ほども申し上げましたとおり、ともに地域の方々と行政とがタイアップして、それぞれの課題をやっていくということでございますので、ご理解をいただきたいと思います。